

学習内容報告書 フォーマット

学校名	只見町立朝日小学校
授業者	仲丸 和宏

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

只見の過去・現在・未来 ～海や海辺の地域から学んだことをもとに、町の未来を考えよう～

1-2. 学年

第6学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

第6学年の総合的な学習の時間のテーマは、只見町の現状についてよさや課題に目を向け、海や海辺の地域との共通点や相違点を比較したり、自然の豊かさと関係付けたりしながら課題を追究し、「只見町の未来」について自分の考えや思いを広く発信したり、課題解決に向けて自ら行動したりすることである。

学習の前半部である本単元では、海や海辺の地域について調べたり、実際に赴いて学んだりしたことを通して、只見の町づくりについて考えていく。そのために、以下のような流れで単元を構成した。

- 1 只見町と海辺の生活について比べ、問いや課題をもつ
- 2 海洋交流学習旅行に向け、海辺の生活について学ぶ
- 3 海洋交流学習旅行から海を知り、只見町の町づくりへの提案に生かす
- 4 調べたことをまとめる

なお、本単元でまとめたことをもとに、後半部の単元では、もう一度、只見町の現状について詳しく調べ、只見町の未来へ向けての取組について、発信したり、自分達でできることに取り組んだりしていく。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

単元のねらい

海辺の人々の生活や街づくりに関心をもち、現在の只見町のよさや課題と比較しながら、自己の課題について調査していくことで、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。

単元設定の理由

(1) 児童の実態

5年生時の総合的な学習の時間では、「只見の食と農」をテーマに、只見町の特産物の調査と郷土料理の調理を行った。また、まとめとして作成したリーフレットを、町のイベントや修学旅行において配り、たくさんの人に只見のよさを伝えている。町の自然の素晴らしさや、それを生かして暮らしや産業が営まれているということを多くの人に伝えたいという気持ちが高い。しかし、町の課題について捉え、未来について考えたり、そのために自分たち自身に何ができるのかを考えたりするには至っていない。

本校のESDで育てたい能力・態度の重点である「コミュニケーションを行う力」については、お互

いに自分の考えを素直に述べ合ったり、友達の考えを推測しながら話を聞いたりすることができる児童が多い。しかし、友達の意見を受け入れて考えを広げたり、自分の考えに取り入れて新たな発想をしたりすることができないなど、自分の考えに固執してしまいがちである。また、高学年になり、コミュニケーションを図ることに対する「恥ずかしさ」を感じる児童も現れてきている。

(2) 単元観

学年の大きなテーマは、「只見町の過去と現在を学び、課題に目を向け、未来に向けた提案をしよう」である。只見町全体の取り組みである「海洋教育」と関連させながら、自分自身のテーマに沿って、課題設定、課題追究、まとめを繰り返していくことで、児童の問題発見力や課題追究力を高めていく。

本単元は、その前半部であり、只見町の課題やよさについて捉えたいうえで、海とのつながりや共通点・相違点、海辺の人々の生活などについて調査していく。他地域と比較をしながら調査したり、つながりを捉えたりする学習は、本校の目指す「只見愛」やE S Dで育てたい能力・態度を育むことにつながると考える。特に、只見町に対する課題やよさについて話し合うことや、海辺で生活する人々との交流を通して、「コミュニケーションを行う力」を高めることができる単元である。「海を知り、海に親しむ」ことが、只見町のよさを再発見したり、只見町の課題を解決する糸口になったりするため、1年間を通した学年テーマの土台となる単元でもある。

(3) 指導観

課題設定の段階では、まずは、只見町と海とのつながりについて十分に理解させた上で、只見町のよさや課題と海辺の人々の生活とを関連させながら、自分自身のテーマを持たせ、課題を設定させていく。何のために海のことを学ぶのかを明確にさせることで、学習の価値付けを行いたい。

課題追究の段階では、海とのつながりを中心に多面的な考察ができるように、児童の思いや実態に応じて、考えを広げられるような資料を用意したり、考えを深める視点をアドバイスしたりしていく。調べたことを、只見町のよさや課題と関連させながら振り返ることで、「海洋交流学習旅行」の活動で何を学ぶことが課題解決につながるかを意識させていきたい。

本時では、只見町の課題と、それらはどのように海とつながるかということ捉えることができるように、まずは、只見町で生活する中で困っていることについての分類に取り組んでいく。話し合いの際には、より意見を表出しやすくするために、付箋紙やK J法などの思考ツールを使っていく。そして、それをもとに、海のどんなことを調べていけばよいかを話し合う。友達の意見を受け入れて、自分の考えに取り入れたり、深めたりするなど、コミュニケーションの質を高めることができるようにしたい。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

批判的に考える力

ア 只見町や海辺の地域のよさだけではなく、課題にも目を向け、建設的に解決方法を考えることができる。

未来を予測して計画を立てる力

イ 只見町と海辺の地域とのつながりを考えながら、調査の見通しをもって、自分なりの問いや課題をもつことができる。

多面的・総合的に考える力

ウ 学習課題について、適切な資料を取捨選択して、必要な情報を集めることができる。

コミュニケーションを行う力

エ 友達と積極的に話し合い、友達の意見を受け入れ、自分の考えに取り入れたり、思考を深めたりすることができる。

他者と協力する態度

オ 友達と協力しながら課題を解決している。



つながりを尊重する態度

カ 只見町と海辺の地域のつながりに気づき、大切にしようとしている。

進んで参加する態度

キ 学習内容・課題に対して興味をもち、学習活動に主体的に取り組むことができる。

1-7. 単元の展開（全21時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1 2 3	<p>○ 只見町と海辺の生活について比べ、問いや課題をもとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 只見を流れる川が海とつながっていることを理解し、そのつながりや海辺の人々の生活などについて知っていることを話し合う。(1) ・ 只見町の課題について話し合い、海のどんなことを調べていったらよいかを話し合う。(1) 本時 ・ 課題を設定し、解決する方法や解決までの計画を立てる。(1) 	<p>ア 只見町や海辺の地域のよさだけでなく、課題にも目を向け、建設的に解決方法を考えることができる。</p> <p>イ 只見町と海辺の地域とのつながりを考えながら、調査の見通しをもって、自分なりの問いや課題をもつことができる。</p> <p>エ 友達と積極的に話し合い、友達の意見を受け入れ、自分の考えに取り入れたり、思考を深めたりすることができる。</p>
4 5 6 7 8 9	<p>○ 海洋交流学習旅行に向け、海辺の生活について学ぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <川の生活と海の生活とのつながり> <海辺の災害> <海辺の人々の生活> 等 ・ 課題に沿って調査をする。(5) インタビュー アンケート 施設見学 図書資料 インターネット ・ 海洋交流学習旅行につなげる。(1) 	<p>ウ 学習課題について、適切な資料を取捨選択して、必要な情報を集めることができる。</p> <p>オ 友達と協力しながら課題を解決している。</p> <p>カ 只見町と海辺の地域のつながりに気づき、大切にしようとしている。</p> <p>キ 学習内容・課題に対して興味をもち、学習活動に主体的に取り組むことができる。</p>
10 11 12 13 14 15 16 17	<p>○ 海洋学習旅行から海を知り、只見町の町づくりへの提案に生かそう。</p> <p>◆ 宮城県名取市閑上地区での活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「閑上の記憶」での震災、津波体験談 ・「かわまちてらす閑上」での商業施設見学 <p>◆ 宮城県仙台市での活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仙台市立六郷小学校児童との交流 ・震災遺構荒浜小学校の見学 ・「うみの杜水族館」見学 ・海岸や海で遊ぶ 	<p>ア 只見町や海辺の地域のよさだけでなく、課題にも目を向け、建設的に解決方法を考えることができる。</p> <p>ウ 学習課題について、適切な資料を取捨選択して、必要な情報を集めることができる。</p> <p>オ 友達と協力しながら課題を解決している。</p> <p>カ 只見町と海辺の地域のつながりに気づき、大切にしようとしている。</p> <p>キ 学習内容・課題に対して興味をもち、学習活動に主体的に取り組むことができる。</p>
18 19 20 21	<p>○ 海洋交流学習旅行での学びをまとめ、発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学んだことをまとめる。(1) ・ 全校生に学びを伝えるための発表原稿と資料をつくる。(3) 	<p>ア 只見町や海辺の地域のよさだけでなく、課題にも目を向け、建設的に解決方法を考えることができる。</p> <p>エ 友達と積極的に話し合い、友達の意見を受け入れ、自分の考えに取り入れたり、思考を深めたりすることができる。</p> <p>オ 友達と協力しながら課題を解決している。</p> <p>カ 只見町と海辺の地域のつながりに気づき、大切にしようとしている。</p>

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。



2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

友達と積極的に話し合い、友達の意見を受け入れ、自分の考えに取り入れたり、思考を深めたりすることができる。＜コミュニケーションを行う力＞

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>(1) 海について知っていることについて、前時に話し合ったことを振り返る。</p> <p>(2) めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>只見町の未来について提案するためには、海のどんなことを調査すればよいのか考えよう。</p> </div> <p>2 只見町で生活していく中で、地域の人や自分が「困っていること」について考え、分類する。</p> <p>(1) 只見町で生活していく中で、地域の人や自分が困っていることについて、考えられることを付箋紙に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雪かき ・少子化 ・高齢化 ・水害 ・店が少ない ・都市まで遠い <p>(2) グループに分かれ、書いた付箋紙を分類する。</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>(3) 見えてきた課題を解決するためには、海のどんなことを調査すればよいかを話し合う。</p> <div style="text-align: center;"> </div>	<p>○ 海について知っていることについて前時にまとめたものを振り返り、只見町とのつながりについて考えることができるようにする。</p> <p>○ 只見の未来について、海と関連させながら考えていくことを改めて押さえ、本時の学習の価値づけを図る。</p> <p>○ 机間指導によって、今までの学習や普段の生活を振り返りながら、課題に目を向けるように促す。</p> <p>※ 考えを付箋紙に書くことで、後の話し合いの際に、自分の考えを表出しやすくする。</p> <p>○ 個人の発言の機会を増やすことができるよう、3つのグループに分かれて話し合いをさせる。</p> <p>○ 自分たちで話し合いをする意識を高めるため、自由発言とするが、話し合いの核となりそうな児童には、事前にポイントを伝え、話し合いが停滞したときのアドバイスをしておく。</p> <p>○ 分類相互のつながりや只見町と海とのつながりを考えたりすることができるように、友達の考えとつなげながら自分の考えを表出することができるように、グループを回りながら話し合いをコーディネートする。</p> <p>※ 思考ツールを活用し、視覚的に分類を捉えやすくすることで、友達の意見を受け入れて、考えに取り入れたり、深めたりすることができるようにする。</p>

<p>(4) グループで話し合ったことを発表し、気づいたことを全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 只見町の課題に気づいた。 ・ 班がちがうと分類が違った。 <p>3 学習感想を書き、次時の学習活動につなげる。</p>	<p>○ グループ相互で分類を発表し合うことで、違った視点に気づくことができるようにする。また、そのような意見を称賛し、多面的な見方をする事への価値づけを図る。</p> <p>◇ 友達と積極的に話し合い、友達の意見を受け入れ、自分の考えに取り入れたり、思考を深めたりしている。(発表・感想)</p> <p style="text-align: center;">＜コミュニケーションを行う力＞</p>
--	--

3. 今回の活動の自己評価

<p>成果</p> <p>○ 調べる視点を明確にして海洋交流学习（宮城県の海での学習）に臨みたいという思いから、ストーリーマップから外れ、只見町の課題を解決するためには海辺の地域で何を調べればよいかを考え、準備してこうという視点で、単元を構成しなおした。海洋交流学习前に、課題解決に沿ったアンケートを準備したり、施設での質問内容を考えたりする時間を十分にとることができ、海洋交流学习が課題の解決にとって有意義なものになったと考える。</p> <p>○ 話し合いを充実させるために、単元を通して、付箋紙や思考ツールを使ってきた。付箋紙や思考ツールを使うことで、話し合いの内容が整理されて視覚的に捉えやすくなり、只見の課題やその解決方法について多面的・総合的に考えたり、自分の考えを吟味し批判的に考えたりすることができた。友達の意見を受け入れ、自分の考えに取り入れたり、広げたりすることで、多面的・総合的に考える力や批判的に考える力が高まったと考える。また、話し合いが活発になったことから、話し合うためのツールを学ぶことが、コミュニケーション力の育成にもつながると考える。</p> <p>○ 多面的・総合的に考える力、批判的に考える力が高まったことで、新たに只見町の課題や海とのつながりに気付くことができた。只見町の課題を解決したいという思いから、海のことを知りたいという思いも高まった。それらの気付きや思いが、主体的な学びにつながったのではないかと考える。</p>

4. 今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> ● 只見町の課題を解決するためという視点も大切だが、只見町のよさに注目させて価値付けることや、課題を解決するのではなく課題と向き合って生きる方法を考えることを取り入れていくことで、さらに只見愛が高まっていくのではないかと考える。 ● 思考ツールを学ぶことが目的ではない。その先の、考える力の育成を大切にしていける必要がある。様々な思考ツールを必要に応じて、選んで使ったり、応用して使ったりすることができるように、他の単元や教科においても思考ツールを活用し、そのメリット・デメリットを体感させていきたい。 ● 海や海辺の地域の人々の様子を知らない子ども達にとって「海辺の地域のことを知って只見町の課題を解決する」という内容は難しかった。海辺の地域のことをよく知ってから、只見町の課題と結び付けていくというストーリーマップ通りの展開も考えられた。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

<ul style="list-style-type: none"> ○ 海の無い山間部での実践であること ○ 海での活動や調査を行うこと前提としていること
--

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。